



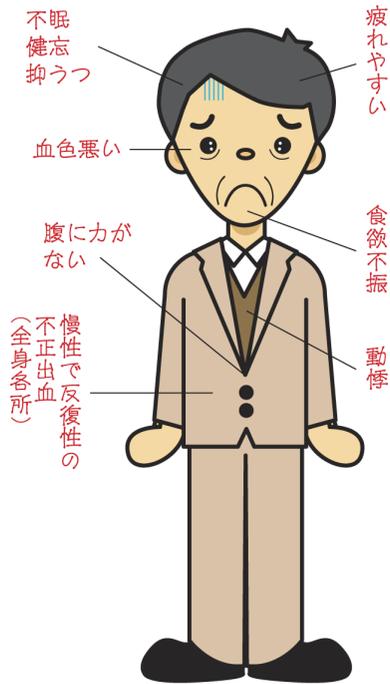
帰脾湯 (きひとう)

【処方コンセプト】 身も心も弱り、心(精神)の疲れを訴える方に。

このタイプの方は、食欲もあまりなく、そのために体を滋養できなくて、疲れやすい。そして、栄養不良が影響し、肉体だけではなく、心も滋養できないため、精神神経症状や不眠などを訴えることになる。

◆帰脾湯は、心血虚と脾気虚が併存する「心脾両虚」を改善する処方である。

◆心血虚とは、不眠、動悸、健忘、不安感など大脳や中枢神経系、心臓の拍動による循環機能の異常のことで、脾気虚とは、疲れやすい、食欲不振、軟便など消化器系の機能低下をさす。



◆直接の適応は健忘・動悸という「心」の症状であり、これに対して心に血を供給して治療する。しかし、その心の症状を引き起こす原因は脾にあると考え、同時に脾気を補って原因の治療も行う。

◆脾の機能の一部に「統血作用」があるとされ、血が血管から外へ漏れ出（出血）ないように脾がコントロールしていると考えられている。脾の機能を補う帰脾湯は、血尿、子宮出血あるいは皮下出血（紫斑病や血小板減少など）など各種の出血にも用いる。

◆帰脾湯タイプの不眠は、眠りが浅く、夢をよく見て、夜間によく目が覚める。逆に嗜眠傾向で、日中も眠くて寝てばかりいる場合もある。

【処方構成】 12味

補気の基本方剤である「四君子湯」に、黄耆（オウギ）を加えると、補気の働きが増強でき、理気（気の巡りを改善する）の木香（モッコウ）によって、脾胃の気を調え、食欲を増進させる。養心安神（心血を補って鎮静させる）の竜眼肉（リュウガンニク）、酸棗仁（サンソウニン）、遠志（オンジ）や当帰（トウキ）で心を滋養し、動悸、不眠などの症状を改善する。補気補血の効能を十分に発揮させ、さらに安神薬により不安を取り除く。また、人参と当帰で新血をつくる。



	驅瘀血				清熱				利水		補氣			理氣		解表	安神		配合生薬数						
	当帰	川芎	牡丹皮	芍薬	柴胡	釣藤鈎	山梔子	薄荷	竹筴	升麻	茯苓	半夏	白朮	黄耆	人参		大棗	甘草		陳皮	木香	枳実	生姜	竜眼肉	酸棗仁
帰脾湯	○										○		○	○	○	○		○		○	○	○	○	○	12
抑肝散加陳皮半夏	○	○			○	○					○	○	○				○	○							9
加味逍遙散	○		○	○	○		○	○			○		○				○				○				10
温胆湯								○		○	○						○	○			○				7
補中益気湯	○				○				○			○	○	○	○	○	○				○				10

処方名	類方鑑別
帰脾湯	気を増す四君子湯がベースの処方で、からだの疲れが精神にまでおよぶもの。
抑肝散加陳皮半夏	痞が高ぶってイライラしているために、興奮が収まらず、眠りにつけない。ヘソの左に動悸を感じ、震えや痙攣が生じる。
加味逍遙散	イライラして怒りやすい、女性では強い月経前緊張症を訴える。些細なことでも腹が立ち、イライラするため眠れない。
温胆湯	慎重派でまじめな性格。物事を決断することに時間がかかり進まない。布団に入ってからあれこれ考えてしまうため、なかなか眠れない。
補中益気湯	不眠や精神不安といった精神症状は少ないが、元気がなく血色が悪い。エネルギー不足のため、すぐにバテたり、カゼをひきやすい。